

発明の名称	Gタンパク質共役型受容体 G2A の作動薬、及び G2A 活性調節薬のスクリーニング方法 (特許第 4972745 号)	
学内発明者	和泉 孝志(医学系研究科) 大日方 英(未来先端研究機構)	
技術分野	医薬	IPF17-024JP
発明の概要	9-ヒドロキシオクタデカジエン酸(9-HODE)などの酸化脂肪酸を含有する G2A 作動薬に関する。また、9-HODE などの酸化脂肪酸を用いた G2A 活性調節薬(作動薬、拮抗薬および逆作動薬)のスクリーニング方法に関する。G2A の活性を調節する薬剤を取得し、医薬や食品などに用いる。	
説明図		G2A を発現させた CHO-K1 細胞における、リシノール酸添加の影響を示す図。CHO-K1 及び CHO-G2A 細胞に Fura-2 を添加し、さらに 1 μM 9(S)-HODE, 10 μM リシノール酸, 又は 100 μM ATP を加えて、細胞内カルシウム濃度を FLEXstation によって測定した。
ポイント	本発明の G2A 作動薬は、癌、免疫性疾患、動脈硬化症などの疾患に対する治療効果や予防効果を有する医薬または食品の有効成分として用いることができる。また、本発明のスクリーニング方法によれば、新規な G2A 活性調節薬を得ることができる。	

発明の名称	ゲノム DNA のメチル化検出方法(特許第 4189495 号)	
学内発明者	畑田 出穂(生体調節研究所)	
技術分野	各種疾患の診断薬、予防薬	IP16-006
発明の概要	非メチル化 DNA 断片を測定対象とし、この非メチル化 DNA 断片量からメチル化 DNA 断片量を算出することにより、より正確にメチル化の程度を検出することができる。	
説明図		発明の方法を例示した模式図。
ポイント	分子生物学や生化学を利用した各種産業分野のみならず、癌等のメチル化異常に起因する各種疾患の診断や予防等に関する医学分野に利用される。	